

でも HCV RNA が検出されない（感染既往の）血液は、ヒトと同一の条件で輸血しても HCV の感染は成立しないこと、が初めて明らかとなった。

本実験研究により明らかにされた成績は、HCV 感染の予防対策を構築していく上で必須の基礎的データとなるものと考えられる。

3. Quantitative measurement of hepatic portal perfusion by multidetector row CT with compensation for respiratory misregistration

（多列検出器型コンピュータ断層撮影（CT）装置を用いた肝門脈血流の定量的測定 —呼吸性移動補正の試み—）

中重 綾

展開医科学専攻病態情報医科学講座（放射線医学）

CT による肝血流測定においては、呼吸性アーチファクトが限界点とされる。今回、多列検出器型 CT 装置（MDCT）を用い、数回の息継ぎを挿入するプロトコールにて呼吸性移動の補正を試み、算出された門脈血流が臨床的および組織学的な線維化の程度と関連し得るか検討した。対象は43例（慢性肝炎 n=9；肝硬変 n=24；正常 n=10）である。MDCT を用い、一回の撮影で4枚の連続画像が得られるパラメータにて肝門部のダイナミック CT を施行した。各々の撮像において得られた横断面から視覚的に近似する1枚を選び、maximum slope 法を用い門脈血流を算出した。呼吸性移動補正を用いることで、算出値は改善された。また、この手法で得られた門脈血流は、慢性肝障害の臨床的重症度および組織学的肝線維化の程度と関連した。算出された門脈血流は、慢性肝障害に関連する線維化の程度の、非侵襲的評価を改善する可能性を有する。

第486回

広島大学医学集談会

（平成16年11月4日）

—学位論文抄録—

1. ADAM8 as a novel serological and histochemical marker for lung cancer

（ADAM8 は肺癌の新規血清学的・組織学的診断マーカーである）

石川 暢久

展開医科学専攻病態制御医科学講座（分子内科学）

非小細胞肺癌手術検体37症例の cDNA マイクロアレイの発現プロファイルと正常29組織の発現プロファイルから、非小細胞肺癌において高頻度に発現上昇し、肝・腎・心・肺での発現が低い膜タンパクを14種類同定した。それらの中で ADAM8 に着目し、研究を行った。RT-PCR, ノザン法, Tissue Microarray によりヒトの正常臓器組織に比べて肺癌組織・細胞株で特異的に発現上昇していることを確認した。次に血清 ADAM8 値は肺癌患者群では、健常人群と比較して高値を示すことを確認した。感度・特異度の検討を検討

したところ、ADAM8 値は CEA 値と比較して肺癌診断において同等またはそれ以上の検出力を持っていた。ADAM8 値単独、CEA 値単独ではそれぞれ57%、63%の陽性率であったが、両者を併用することにより陽性率は80%になった。以上、肺癌新規診断マーカーとして ADAM8 を同定した。

2. Methylation-associated silencing of heparan sulfate D-glucosaminyl 3-O-sulfotransferase-2 (3-OST-2) in human breast, colon, lung and pancreatic cancers

（ヒト乳癌、大腸癌、肺癌および膵癌におけるヘパラン硫酸グルコサミン3-O-スルホトランスフェラーゼ2遺伝子のメチル化によるサイレンシング）

宮本 和明

創生医科学専攻先進医療開発科学講座（外科学）

DNA メチル化のゲノムスキャン法を乳癌に応用し